

2025年度  
助産別科  
入学者選抜問題  
小児看護学

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をよく読んでください。

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. 解答用紙は、マーク用解答用紙と記述用解答用紙が両面に印刷されています。  
マーク式の問題はマーク用解答用紙に以下の例のようにマークしてください。  
(例)

解答										
1	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
2	①	②	③	●	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

※各問題に解答の数を示しています。それ以外の答えの数をマークしても正解にはなりません。

記述式の問題は記述用解答用紙に記入してください。

3. 机の上には、受験票・鉛筆・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り（電動式は除く）・時計（時計機能だけのもの）・眼鏡以外のものは置かないでください。
  4. 問題・解答用紙の両方に必ず受験番号・氏名を記入してください。また、受験番号をマークしてください。提出の前には記入漏れがないか再度確認してください。
  5. 問題は全問解答必須です。
  6. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明・ページの落丁・乱丁に気付いた場合、また問題の内容について質問などのある場合には、手を挙げて監督者に知らせてください。
  7. 問題冊子の余白等は適宜利用して構いません。
  8. 配布された問題・解答用紙は試験終了後回収しますので、持ち帰らないでください。
- ◇携帯電話は、電源を切ったうえで鞆の中にしまってください。

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

**【問題 1】** 健康診断関連について適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 新生児マススクリーニングに視覚検査が導入された
2. 乳幼児健診および学校健診の管轄は厚生労働省である
3. 学校の定期健康診断の主体は各自治体の保健センターである
4. 学校の定期健康診断後の受診勧告は 21 日以内に保護者になされる

**【問題 2】** 子どもの疾患について適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 脳性まひは知的障害を伴う
2. 子どものⅡ型糖尿病は生活習慣病ではない
3. 子どもの不整脈は健診で見つかることが多い
4. 子どもの慢性疾患で最も多いのは心臓病である

**【問題 3】** 子どもの救急処置について適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 誤飲したときにはまず吐かせる
2. 捻挫したときにはまず冷やす
3. 熱中症が疑われる場合はまず水を飲ませる
4. 怪我をして出血しているときにはまず傷口を洗う

**【問題 4】** 学校保健安全法施行規則における出席停止期間について適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 風疹は解熱後 3 日を経過するまで
2. 麻疹は解熱後 3 日を経過するまで
3. 咽頭結膜熱は主症状消退後 3 日を経過するまで
4. インフルエンザは解熱後 3 日を経過するまで

**【問題 5】** 現行の予防接種について任意接種はどれか。1つ選べ。

1. 髄膜炎菌
2. ロタウイルス
3. 小児肺炎球菌
4. ポリオ（不活化ワクチン）

【問題6】 てんかんについて適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. 小児欠神てんかんはてんかん症候群の代表的なものである
2. てんかんの分類は発作型分類・病型分類・症候群分類に分けられる
3. ウエスト症候群（點頭てんかん）は全小児てんかんの10%を占める
4. てんかん発作型は焦点起始発作と全般起始発作および起始不明に分けられる

【問題7】 健やか親子21（第2次）の基盤課題Bの目標「子どもが主体的に取り組む健康づくりの推進と次世代の健康を育む健康対策の充実」の健康水準の指針はどれか。1つ選べ。

1. 十代の性感染症罹患率
2. 虫歯のない3歳児の割合
3. 子どもかかりつけ医をもつ親の割合
4. 小児救急電話相談（#8000）を知っている親の割合

【問題8】 ファロー四徴について適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 無酸素発作を予防する
2. 左右短絡群の代表である
3. ダウン症候群に併発しやすい
4. 心エコーによる冠動脈の観察を行う

【問題9】 食物アレルギーに関して適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. IgE依存型とIgE非依存型がある
2. 経口免疫療法は耐性獲得を目指す療法である
3. 原因食物の除去食は栄養障害のリスクを高める
4. 食物アレルギーの有病率は乳幼児で3～5%である

【問題10】 学童期のI型糖尿病の対応について適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 学校給食の制限
2. シックデイ対策
3. シックハウス対策
4. 糖尿病性ケトアルカローシス

[問題11] ダウン症児について適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 筋緊張が強い
2. 特別支援学校に就学する
3. 一人歩きは4～5歳ごろには可能になる
4. 滲出性中耳炎など後天的に起こりやすい合併症がある

[問題12] 児童虐待防止について適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 虐待死は乳児が全体の約半数を占める
2. 母親が受けるDVは児童虐待に含まれる
3. 虐待を発見した看護師は福祉事務所に通告した
4. 通告は児童自身の意思を尊重することが規定されている

[問題13] 現行の育児時間・育児休業について適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 育児休業は2回まで分割して取得することができる
2. 育児時間・育児休業は児童福祉法に規定されている
3. 1歳6か月未満の児を養育する労働者は短時間勤務制度を請求できる
4. 出生時育児休暇（産後パパ育休）は出産後4週間以内にとることができる

[問題14] 乳児期の不慮の死亡で最も多いのはどれか。1つ選べ。

1. 窒息
2. 転倒転落
3. 交通事故
4. 溺死・溺水

[問題15] WHOが提唱しているライフスキルとして適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. 体力向上スキル
2. 自己認知スキル
3. 創造的思考スキル
4. ストレスコーピングスキル

[問題16] 乳幼児の下痢について適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. 臀部の清潔ケア
2. 水分・電解質の補給
3. 食物アレルギーの症状
4. ヒルシュスプルング病の症状

[問題17] 医療処置時に看護師が行う注意転換（ディストラクション）はどれか。1つ選べ。

1. ご褒美シールを与える
2. 処置の進行状況を伝える
3. 絵本の読み聞かせやDVDを視聴させる
4. 人形や使用物品を用いて処置の説明を行う

[問題18] 医療費の支援について適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. 未熟児養育医療は母子保健法に規定されている
2. 結核児童療育医療は結核予防法に規定されている
3. 自立支援医療（育成医療）は児童福祉法に規定されている
4. 小児慢性特定疾患治療研究事業は児童福祉法に規定されている

[問題19] 学童期・思春期の食生活について適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 鉄分は男女とも不足しやすい
2. 脂肪エネルギー比率は20～30%である
3. エネルギー・タンパク質・脂質の摂取基準は成人より多い
4. 食事バランスガイドの普及は第二次食育推進基本計画の施策である

[問題20] 親に指導する座薬の使い方について適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. 座薬は処方された児のみに使用する
2. 挿入後間もなく便が出た場合は新たな座薬を挿入する
3. 処方は身長に応じて座薬1個・1/2個・2/3個などと指示される
4. 座薬挿入後は肛門部をしばらくティッシュペーパーなどで押さえる

[問題21] 体温および体温測定について適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. 成人とほぼ同じ体温になるのは10～15歳位だ
2. 低体温が疑われた場合は直腸温の測定を選択する
3. 腋窩測定では体温計が上半身に対し60度位の角度で挿入する
4. 口腔内の体温測定は5～6歳以上で協力を得られる場合には行える

[問題22] 中枢性思春期早発症の所見で適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 12歳以上で初潮をみる
2. 副腎性アンドロゲン過剰分泌亢進
3. 14歳未満で精巣、陰茎、陰囊の発育がおこる
4. 下垂体性ゴナドトロピン・性ステロイドホルモンの分泌亢進

[問題23] 子どもの権利にそった看護として適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 手術後は安全のために体幹抑制を行う
2. 治療が終わるまでは遊びを我慢するように説明する
3. 泣いたり騒いだりする乳幼児の反応を意思表示として尊重する
4. 面会や付き添いの制限のルールを遵守するように保護者に要請する

[問題24] 子どもに多い骨折の特徴として適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 脊椎圧迫骨折
2. 骨の融合不全
3. 上腕や橈骨の骨折
4. 若木骨折・隆起骨折

[問題25] 二分脊椎の説明で適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. 膀胱・直腸障害
2. 下肢の感覚・運動障害
3. 母体の葉酸過剰摂取の影響
4. 80～90%に水頭症やキアリ奇形の合併

[問題26] 子どもの睡眠覚醒について適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. 乳児期は多相睡眠である
2. 4～5歳ごろに単相性睡眠に移行する
3. 乳児期のレム睡眠は睡眠の20～25%を占める
4. メラトニンは朝の光を浴びてから約15時間後に分泌される

[問題27] 学童期の発育について適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. 小学校5・6年では女子の方が身長が上まわる
2. 学童期前期の身長は1年間で約5～6cm伸びる
3. 9歳ごろに体重が約30kgとなり出生時の10倍になる
4. 学童期の体型を示すためにカウプ指数が用いられる

[問題28] 小児領域で留意する概念・理論について適切なものはどれか。1つ選べ。

1. ジェノグラムとは家族性の遺伝疾患に関する図表である
2. レジリエンスはストレス耐性に関する概念のひとつである
3. ソーシャルスキルは日常生活習慣の自立に関する技能のことである
4. 看護師はセルフケアエージェンシーとしてこどもにセルフケアを指導する

[問題29] ピアジェによる認知発達について前操作段階に相当する年齢はどれか。1つ選べ。

1. 0～2歳
2. 2～7歳
3. 7～11歳
4. 11歳以降

[問題30] 思春期の身体発育の説明で適切なものはどれか。1つ選べ。

1. 女子の身長が伸びるピークは13歳ごろである
2. 女子の体重増加の要因は体脂肪より筋肉量が主である
3. 思春期から成人の身長に達するまで平均して男子は20cm伸びる
4. 14歳の祖父母と孫世代の違いは男子で身長7.7cm 体重7.1kg程である

[問題31] 姿勢反射の説明で適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 平衡反応は脊髄・橋の原始反射である
2. 主な姿勢反射は生後3～4か月で消失する
3. 姿勢反射は中脳レベルの反射である
4. パラシュート反射は生後6～7か月ごろに消失する

[問題32] 呼吸機能の特徴について適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. 新生児の肋骨は水平に走っている
2. 幼児期前期までは腹式呼吸である
3. 乳児期の胸郭は前後径と左右径がほぼ等しい
4. 学童期には胸腹式呼吸から腹式呼吸へと移行する

[問題33] 頭部の成長で適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 小泉門は6か月ごろ閉鎖する
2. 脳の重量は3歳ごろに新生児の3倍になる
3. 神経線維の髄鞘化は3歳ごろまでみられる
4. 頭囲は5歳ごろまで著しい増加がみられる

[問題34] 薬物動態の特徴について適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 薬物の体外排泄が遅い
2. 薬物の代謝能力が高い
3. 薬物の体内分布が大きい
4. 薬物の吸収量は成人同様だ

[問題35] 川崎病の主症状にないのはどれか。1つ選べ。

1. 発熱
2. いちご舌
3. コプリック斑
4. 両側眼球結膜の充血

[問題36] 二次性徴と関係しないのはどれか。2つ選べ。

1. 骨髄
2. 骨塩量
3. 骨端軟骨
4. 拇指内転種骨
5. 第2大臼歯の萌出

[問題37] 骨の発生と成長に関する生理で誤っているのはどれか。1つ選べ。

1. 長さの成長は骨端軟骨が骨におきかわることで成長する
2. 成長ホルモンの分泌が低下すると骨端軟骨が消失する
3. 骨の太さの成長は骨膜の成長である
4. 頭蓋骨の発生は置換骨である

[問題38] 子どもの成長・発達で正しいのはどれか。1つ選べ。

1. 身体諸機能の臨界期は一定である
2. 基本的な運動発達は脚部から頭部の方向に進む
3. 新生児期では遺伝因子より環境因子の影響が大きい
4. エリクソン, E. H. の幼児前期の発達課題は「自律性」対「疑惑」である

[問題39] 幼児期の食事で正しいのはどれか。1つ選べ。

1. おやつ（間食）は補食である
2. 献立は子どもの嗜好に合わせる
3. 偏食がある場合は早期に矯正を行う
4. 1回の食事時間は子どもが食べ終わるまでとする

[問題40] Aちゃんは、もうすぐ3歳の誕生日を迎える。Aちゃんが最近獲得したと考えられるのはどれか。1つ選べ。

1. 片足立ち3秒
2. 「おもちゃがないの」と言う
3. 「ねんね」などの1語文を言う
4. 「おちゃ、ちょうだい」などの2語文を言う

【問題41】 子どもの成長・発達で正しいのはどれか。1つ選べ。

1. 成長・発達は一定の速度で進む
2. 基本的な運動発達は脚部から上方へ向かう
3. 基本的な運動発達は、微細運動から粗大運動へと進む
4. 器官や機能の成長・発達には決定的で重要な時期がある

【問題42】 子どものバイタルサインについて正しいのはどれか。1つ選べ。

1. 呼吸音は最後に聴取する
2. 原則、最初に測定するのは体温である
3. 呼吸周期に関連した心拍リズムの不整は異常と判断する
4. 血圧測定時は上腕の2/3を覆う幅のマンシェットを使用する

次の文を読み、[問題43]～[問題45]に答えなさい。

Kちゃん(8歳、女児)は、2週間前から口渇、多飲があり、夜尿が気になっていた。本日登校中に突然、意識消失で倒れ搬送された。受診時の身体所見は、体温37.0℃、呼吸数36/分、脈拍100/分。検査結果は、血糖値600mg/dl(食後3時間経過)、HbA1c9.5%、血液ガス分析pH7.25、血清ケトン体(+)、尿糖および尿ケトン体は強陽性であった。既往歴はない。KちゃんはI型糖尿病の疑いで入院した。

[問題43] 受診時のKちゃんの状態で正しいのはどれか。1つ選べ。

1. 腎機能低下
2. ケトアシドーシス
3. 呼吸性アルカローシス
4. グルカゴンの分泌低下

[問題44] KちゃんはI型糖尿病と診断され、インスリン注射を1日4回(朝・昼・夕に超即効型インスリン、就寝前に持効型溶解インスリン)行うこととなった。Kちゃんへのインスリン注射の指導で適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 「注射したところをよくもんでね」
2. 「学校では注射をしなくてもいいよ」
3. 「ご飯を食べ始める前に注射しようね」
4. 「注射するところを決めて、毎回同じところに注射しようね」

[問題45] Kちゃんは、血糖値の自己測定とインスリンの自己注射ができるようになったため、退院に向けて、医師、看護師、養護教諭と家族が集まりカンファレンスが行われた。退院後の注意点についての指導内容で適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 「低血糖時は、体育の授業を休ませてください」
2. 「低血糖時は、まずおにぎりを食べさせてください」
3. 「体調が悪いときは、インスリン注射は中止してください」
4. 「授業中でも空腹状態を我慢させないようにしてください」









